

令和5年第1回定例会

富良野市議会会議録

令和5年3月7日（火曜日）午前10時00分開議

◎議事日程（第4号）

日程第 1 市政執行方針
教育行政執行方針
代表質問
ふらの未来の会
民主クラブ
ふらの令和の会
市民連合議員会

佐藤 秀靖 君
石上 孝雄 君
後藤 英知夫 君
松下 寿美枝 君

◎出席議員（17名）

議長	18番	黒岩 岳雄 君	副議長	13番	今 利一 君
	1番	宮田 均 君		2番	渋谷 正文 君
	3番	大西 三奈子 君		4番	松下 寿美枝 君
	5番	大栗 民江 君		6番	関野 常勝 君
	7番	石上 孝雄 君			
	9番	小林 裕幸 君		10番	家入 茂 君
	11番	本間 敏行 君		12番	佐藤 秀靖 君
	14番	宇治 則幸 君		15番	日里 雅至 君
	16番	天日 公子 君		17番	後藤 英知夫 君

◎欠席議員（0名）

◎説明員

市長	北 猛俊 君	副市長	稲葉 武則 君
総務部長	関澤 博行 君	スマートシティ戦略室長	西野 成紀 君
市民生活部長	山下 俊明 君	保健福祉部長	柿本 敦史 君
経済部長 兼ぶどう果樹研究所長	川上 勝義 君	建設水道部長	北川 善人 君
看護専門学校長	澤田 貴美子 君	総務課長	入交 俊之 君

財 政 課 長 藤 野 秀 光 君
教育委員会教育長 近 内 栄 一 君

企 画 振 興 課 長 小 笠 原 竹 伸 君
教育委員会教育部長 亀 淵 雅 彦 君

◎事務局出席職員

事 務 局 長 井 口 聡 君
書 記 向 山 孝 行 君

書 記 大 津 諭 君
書 記 鷺 見 悠 太 君

午前10時00分 開議
(出席議員数17名)

開 議 宣 告

○議長（黒岩岳雄君） これより、本日の会議を開きます。

新型コロナウイルス感染防止のため、会議中のマスクの着用を許可いたします。

会議録署名議員の指名

○議長（黒岩岳雄君） 本日の会議録署名議員には、
渋谷正文君
後藤英知夫君
を御指名申し上げます。

日程第1

市政執行方針並びに教育行政執行方針に対する 代表質問

○議長（黒岩岳雄君） 日程第1、市政執行方針並びに教育行政執行方針に対する代表質問を行います。

通告に従い、順次、質問を行います。

初めに、ふらの未来の会、佐藤秀靖君の質問を行います。

12番佐藤秀靖君。

○12番（佐藤秀靖君） -登壇-

私は、ふらの未来の会を代表して、今定例会に提出されました令和5年度市政執行方針並びに教育行政執行方針について質問いたします。

市長は、市政執行方針の冒頭で、新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢による原材料やエネルギーなどあらゆる資源の価格上昇などを指摘し、今年こそは、経済回復と日常生活を取り戻し、新たな夢と希望を次世代につなげていくための転換期と捉え、市民が誇りと愛着を持って住み続けたいと感じてもらえるよう、まちづくりに全力で取り組む決意を述べられました。混沌として予測不能な不確実性の時代だからこそ、自治体運営には、首長の強力なリーダーシップが必要となります。

今年、第6次富良野市総合計画の中期4年計画がスタートし、立地適正化計画や地域公共交通計画が策定されるなど、まちづくりの基礎となる計画や、経済面では、観光経済調査や観光振興計画であるFURANO VISION 2030第2次アクションプラン、第4次農業振興計画の策定、さらには、第3次富良野市健康増進計画及び富良野市国民健康保険第3次保健事業実施計画の策定や、こども家庭センターの整備など、市民の健幸を充実させるための

年であり、市長のお言葉の新たな夢と希望を次世代につなげていくための転換期としての年に、市長の手腕に大いに期待するところであります。

以下、順次、質問してまいります。

重点政策の一つ目、健幸都市について。

市長は、健幸都市実現を公約に掲げ、市長就任以来、積極的に取り組んでいらっしゃいました。令和4年は、保健福祉部に担当主幹を配置し、その取組を加速させています。

自治体運営において、健幸都市という考え方は、時代の要請であり、その取組には大いに評価するところです。

執行方針では、保健医療分野における健康増進施策に加え、生活環境整備や、地域における信頼関係や絆の醸成、産業振興など、様々な分野と連動させ、まちづくりそのものを健幸にするとしています。庁内の各部署の事業を健幸都市という考え方の下に連携させ、横串を刺す体制づくりやコンセプトワークが必要と考えますが、お考えを伺います。

二つ目は、ゼロカーボン、脱炭素の取組について。

ゼロカーボンシティ実現に向けた取組として、二酸化炭素排出量の実質ゼロに向けた地域住民や関係団体との協議をスタートさせているとしていますが、具体的な内容を伺います。

三つ目は、デジタル化の推進について伺います。

デジタル化による市民の利便性向上については、AIやIoTを活用し、交通事業者との共創により利用者の移動ニーズに対応した地域公共交通の利便性向上を進めるとともに、市内での消費を促進し地域内の経済循環に資するICT導入を進めるとしてはいますが、具体的な内容を伺います。

続いて、第6次富良野市総合計画基本構想に掲げる4つのコンセプトに沿った主な施策について伺います。

1、輝く。つながり合う。ひとのWA！。

市長は、社会がどのように変わっても、支え合いで多世代が共生する持続可能で豊かなコミュニティーを形成するまちづくりは行政運営の基本とおっしゃっています。

地域における社会福祉について、高齢者、障がい者、子供など、世代や背景の異なる全ての人が参画し、地域を共に創っていく地域共生社会の実現に向けた取組を推進するとしていますが、どのように取り組むのか、その推進体制はどのようにお考えなのか、伺います。

高齢者福祉について地域包括ケアシステムの深化、推進としていますが、深化という一歩踏み込んだ表現をしています。

現在までの取組をどのように評価し、どのように深化させるつもりなのか、お考えを伺います。

また、介護人材確保対策に取り組むとしていますが、高齢化が進む本市において、人材確保は喫緊の課題と考

えますが、市長の認識と介護人材確保に注力する具体的なお考えを伺います。

障がい者福祉については、全ての市民が、障がいの有無にかかわらず、互いに尊重し合い、理解し合いながら共に生きていく共生社会の実現に向け、関係機関とのネットワークを強化するとしていますが、具体的なお考えを伺います。

また、人権意識の高揚と男女共同参画の推進について、外国人観光客や就労外国人の増加を見据え、外国人との共生について、地域と連携を図るとしていますが、どのように地域との連携を図るのか、伺います。

スポーツ活動について、屋外スポーツ施設の有効活用に向けた検討とありますが、どのようなお考えの下の有効活用の検討なのか、伺います。

2、創る。まわす。しごとのWA！。

本市の基幹産業である農業と観光は、共に大きな課題を抱えていると考えます。

すなわち、農業においては、農家戸数の減少や後継ぎ問題、農業基盤整備など、観光においては、ポストコロナの外国人観光客など新たな観光の提案をしっかりと組まなければなりません。

持続可能な農業の推進について、最適な通信環境の整備に向けた実証実験に取り組むとしていますが、具体的内容を伺います。

通年型、滞在型観光の推進について、FURANO VISION 2030の実現に向け、アクションプランを基に取組を進めるとしてありますが、現在公表されている第1期アクションプランは2022年までとなっています。

今年、2023年からの第2期アクションプランに基づき取組を進めるということによろしいか、確認します。

また、第2期プランの公表はいつになるのか、伺います。

観光マネジメントの強化ですが、観光経済調査により経年変化を分析し、今後の観光戦略につなげるとしてありますが、おおむね5年ごとに行っている観光経済調査は、毎回、報告書として公表されるのは年度末であると認識しておりますが、観光経済調査の時期、分析期間をお知らせください。

また、持続可能な観光地形成について、市民の努力により確立されたごみ分別を観光客に理解していただく取組を進めるとしてありますが、具体的な取組について伺います。

雇用促進について、労働力確保に向けた新たな施策を検討するとしていますが、外国人労働者を含めた施策も考えられると思いますが、施策検討の方向性を伺います。

3、想う。みがき合う。まちのWA！。

公営住宅について、子育て世帯に特化した宅地分譲を実施するとありますが、議論経過と宅地分譲の具体案に

ついて伺います。

空き家対策として、倒壊などの危険性の高い空き家の除去を促進し周辺環境対策に努めるとありますが、具体的な対象空き家があるのかどうか、伺います。

地域コミュニティーの再構築と活性化について、自治会活動への支援を行うとしていますが、地域課題解決に向けた自治会、町内会との連携協力、支援をどのような方法で行うのか、伺います。

続いて、教育行政執行方針について伺います。

冒頭で、次代を担う子供たちを安心して育てることができると子育て支援の基盤の充実に向け、全ての子供の発達段階や特性に応じた相談、支援体制充実のため、こども家庭センターの設置準備を進め、関係部署との連携により、切れ目のない子育て支援施策を総合的に推進するとしています。

これは、国の動きと連動したものと理解していますが、関係部署との連携もさることながら、子育てをする当事者である保護者や関係者の声を丁寧に聴取し、ニーズを把握して体制づくりを進める必要があると考えますが、お考えを伺います。

1、主体的な学びを育てる 知育の木について。

学力向上について、主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進するとあります。これは、新学習指導要領のアクティブラーニングの考え方に基づくものであると理解していますが、本市の学校教育現場において授業改善をどのように推進するのか、具体的なお考えを伺います。

また、本市におけるICT教育における課題をどのように認識しておられるか、伺います。

そして、新たに2名のICT支援員を配置するようですが、現在、北海道から派遣されている3名の授業改善推進チームが3月で任期満了になると伺っています。

ICT教育充実支援についてのお考えを伺います。

2、自主自律の心を育てる 情意の木について。

不登校児童生徒への支援として、教育支援センターの機能強化と児童生徒の健康状態や気持ちの変化を確認するスクリーニング体制を整備とありますが、具体的に機能強化や体制整備をどのように構築し、運用するのか伺います。

以上で、ふらの未来の会の代表質問を終わります。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市長北猛俊君。

○市長（北猛俊君） -登壇-

ふらの未来の会、佐藤秀靖議員の市政執行方針に対する代表質問にお答えします。

1件目の重点政策についての健幸都市についてであります。健康づくりや生きがいづくり、生活習慣病や介護予防などの施策に加え、社会インフラ整備や地域資源

の活用などの施策を全庁的に推進するため、令和4年8月、庁内に設置した健幸都市づくりプロジェクト会議を中心に、現在策定中の富良野市健幸都市推進プランに基づき、各種事業に取り組んでまいります。

次に、ゼロカーボンの取組についてであります。現在策定中の脱炭素ロードマップにおいて、2050年ゼロカーボンシティー実現へのシナリオとして、促進地区を設定し、調査研究、試行しながら得られた知見を徐々に広げていくことも想定していることから、地区設定に向け、取組の意義や他地域の事例など、情報共有しながら、地域住民と関係団体による協議の場を設け、ゼロカーボンへの機運を高めてまいります。

次に、デジタル化の推進についてであります。富良野市街地に約50か所の乗降ポイントを設置し、会員登録した利用者が電話またはスマホのアプリから乗車予約すると、AIが最適なルートや運行時間を算出し、乗り合いによって目的地まで送迎するAIオンデマンド交通の有償による実証運行に取り組むとともに、市内共通商品券や行政ポイントをデジタル化し、市内でキャッシュレスによるお買物ができるデジタル地域通貨の導入に向けて、先月、国のデジタル田園都市国家構想推進交付金を申請したところであります。

2件目の輝く。つながり合う。ひとのWA!の地域における社会福祉についてであります。第3期富良野市地域福祉計画に基づく各種施策に関係機関、事業所等と連携しながら推進してまいります。

地域福祉の推進は、市民同士のつながりが基盤であり、障害者週間に合わせた事業所活動の展示、広報や市ホームページを活用した啓発活動に取り組み、障がいのある人への理解を市全体で深めていくことにより、互いに尊重し、支え合い、自分らしく生きることのできる地域共生社会を目指してまいります。

次に、高齢者福祉についてであります。団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムのさらなる充実に向け、取り組んでいるところであり、多職種による地域ケア会議などを通じて、地域の課題を把握し、必要な生活支援サービスにつなげてまいりました。

令和5年度は、第9期富良野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に向けたニーズ調査などを実施し、今後も、関係機関、事業所との連携強化に努めるとともに、中核機関として地域包括支援センターの機能強化を図ってまいります。

介護人材不足については、重要な課題と捉えており、引き続き、市内の介護人材育成を目的とした介護人材育成事業補助金を継続してまいります。

また、新たな介護人材の創出につながる取組として、令和3年度に正会員となった外国人介護福祉人材育成支援協議会による事業所とのマッチングによって、令和5年度から市内事業所において外国人留学生1名の採用が内定していることから、今後も事業所の意向を確認しながら介護人材の確保に努めてまいります。

次に、障がい者福祉についてであります。障がいのある人もない人も、お互いに人格と個性を尊重し合いながら暮らすことのできる共生社会の実現を目指し、障害福祉サービス事業所と連携し、障がいのある方への情報提供、相談、社会参加促進、生活のサポートや日中一時支援等の地域生活支援事業を推進するとともに、圏域5市町村の担当部局、関係機関、事業所等で構成される富良野地域自立支援協議会において、地域課題の解決策の検討など、ネットワークの連携強化を図ってまいります。

次に、外国人との共生についてであります。外国人観光客及び外国人居住者の増加、外国資本による開発等の状況による地域コミュニティの課題について、各連合会、町内会から状況を伺い、現状の把握に努めており、今後も、外国人との共生に向け、外国人居住者の相談や町内会への加入促進、ごみの分別、外国人観光客のマナーなどの課題解決に向け、多言語による情報提供に努めるとともに、必要に応じて地域との意見交換会等を開催してまいります。

次に、スポーツ活動についてであります。屋外スポーツ施設の有効活用に向けた検討においては、人口減少や社会変化に伴う既存施設の整備方針について検討しながら、市民の健康づくり、気軽に親しめる生涯スポーツの振興を優先に考え、利用者や関係機関及び関係団体等と意見交換を行ってまいります。

3件目の創る。まわす。しごとのWA!の持続可能な農業の推進についてであります。農林水産省農山漁村振興交付金の情報通信環境整備対策事業を活用し、令和5年度からの2年間、山部北星地区及び南陽地区において、水田やビニールハウスの自動給水及び自動制御の水管理システム導入における通信環境の実証実験及び最適化調査を実施することとしております。

次に、通年型、滞在型観光の推進についてであります。第2期アクションプランは、現在ふらの観光まちづくり戦略会議において策定作業を進めており、令和5年6月を目途に公表し、これに基づき、取組を進めてまいります。

次に、観光マネジメントの強化についてであります。観光経済調査は、夏と冬に観光消費額についての調査を行うとともに、市民の意識及び観光による経済波及効果の調査を実施することから、調査及び分析期間を年度末までとし、調査結果の公表は令和6年5月を予定しております。

次に、持続可能な観光地形成についてであります、令和4年度は、観光庁のモデル事業において、本市がごみ分別を始めた経過や実施内容を周知するウェブサイトを整備しております。令和5年度は、QRコードを記載した看板を生ごみ堆肥を活用した花壇に設置することにより、市民や観光客に対し、ごみ分別の取組を広く紹介してまいります。

次に、雇用促進についてであります、少子高齢化の進行に伴う生産年齢人口の減少により、労働力確保は本市においても急務の状況であります。学卒者の地元定着促進や首都圏からの移住就労、高齢者や子育てママ等の潜在労働力の掘り起こしに向け、しごと情報提供サイト、フラノ・ジョブ・スタイルでの情報発信を行うとともに、外国人労働者やU I J ターン就労者を獲得するための支援策を全庁的に検討してまいります。

4件目の想う。みがき合う。まちのWA!の子育て世帯に特化した宅地分譲についてであります、公営住宅跡地を宅地分譲し、子育て世帯の宅地取得を支援することで、子育てしやすい住環境や子育て世代の定住促進、公有財産の有効活用などが期待できるとして、令和3年度に職員提案制度により提案された事業で、この間、事業実現に向け、関係各課による課題の整理や効果的な事業へ向けた議論を行い、事業化するものであります。具体的には、東町団地の一面を85坪程度に分筆し、市内建設業者の施工、対象者は40歳未満で、16歳未満の子供がいるなどの要件を設け、低価格で分譲しようとするものであります。

次に、空き家対策についてであります、空き家等除却事業は、倒壊の危険性が高いなど、空家等対策協議会で特定空き家や不良住宅として認定された空き家が対象となります。現在、この事業に該当すると思われる空き家を1件確認しております。

次に、地域コミュニティの再構築と活性化についてであります、町内会活動などの地域コミュニティの課題として、役員の担い手不足や会員の減少、高齢化等に加え、外国人との共生についても新たな課題となっていると認識しております。

このため、連合町内会単位に設置しているコミュニティ活動推進員による町内会との連携を継続していくことと併せて、地域づくり推進補助金による活動への助成を継続するなど、住民との共創、協働により課題解決に向けた取組を進めてまいります。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続けて、御答弁願います。

教育委員会教育長近内栄一君。

○教育委員会教育長（近内栄一君） -登壇-

ふらの未来の会、佐藤秀靖議員の教育行政執行方針に対する代表質問にお答えいたします。

1件目、切れ目のない子育て支援についてのこども家庭センターの体制づくりについてであります、こども家庭センターは、保健センター2階にこども通園センターの移転とともに整備を計画しており、保健センター1階の保健医療課及び子育て支援センターの様々な専門職と連携し、子供の発達段階、成長に合わせた相談、支援ニーズを把握しながら、子供子育て世代への切れ目のない体制を構築してまいります。

2件目、学力の向上についてであります、子供たちが豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができる資質、能力を育成するためには、知識の暗記、正解主義への偏りから、児童生徒の発達段階に応じ、興味、関心を生かした主体的な学びを促す指導が必要であります。授業改善に当たっては、学習意欲を増進し、生涯にわたり学び続ける資質、能力を育成するため、児童生徒が自ら学び続けることを重視し、他者との協働や課題解決型学習などにより、対話的で深い学びが実現できるよう取り組んでまいります。

3件目、ICT教育についての課題の認識についてであります、本市において本格導入されているICT活用による教育の効果をさらに高めるためには、教師の指導力向上やデジタル機材、学習ソフト、教科書などのICT環境整備の一層の充実が必要と考えております。

次に、ICT教育充実支援についての考えであります、従来の教師による対面指導に加え、一斉学習や個別学習、協働学習など様々な学習場面においてICTを活用することや、目的に応じ、遠隔授業やオンデマンドの動画教材を取り入れるなど、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての教師の役割を果たしつつ、リアルとデジタルを融合した学校教育活動に取り組んでまいります。

4件目、不登校児童生徒への支援についての教育支援センターの機能強化や体制整備の構築についてであります、教育支援センター、適応指導教室では、指導員による支援だけではなく、臨床心理士による児童生徒や保護者へのカウンセリングを行い、寄り添い、傾聴し、孤立させないよう見守り体制を強化してまいります。

また、富良野版児童生徒理解・支援シートや端末を活用し、スクリーニング体制を整備するとともに、関係者が情報を共有し、それを基に、困難を抱える児童生徒へのアセスメント、状況把握、分析や具体的な支援策の策定、それに基づく支援を行ってまいります。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 以上で、佐藤秀靖君の質問は終了いたしました。

次に、民主クラブ、石上孝雄君の質問を行います。

7番石上孝雄君。

○7番（石上孝雄君） -登壇-

民主クラブを代表して、令和5年度市政執行方針について質問してまいります。

令和3年度からの第6次富良野市総合計画が始まり、三つの重点政策、健幸都市について、ゼロカーボンの取組について、デジタル化の推進について、主な施策については、輝く。つながり合う。ひとのWA!、創る。まわす。しごとのWA!、想う。みがき合う。まちのWA!、感じる。つなげる。自然のWA!を目標に掲げ、本年度3年目を迎えようとしています。

しかし、新型コロナウイルス感染症による世界的な経済の停滞、また、1年が経過したロシアにより始まったウクライナ侵攻では、食料、化石燃料、その他、挙げれば切りがないほど高値が続き、企業経営、市民生活は深刻さを増しております。この状況が早く終息し、スムーズな第6次富良野市総合計画が進行できるよう願うばかりです。

健幸都市については、科学的根拠に基づく健康支援やふらの健幸ポイント事業などの行動変容促進など、保健医療分野での健康増進施策に加え、生活環境整備や地域コミュニティ、産業振興など様々な分野と連動させ、まちそのものを健幸にすることにより、市民一人一人が自然に健康で幸せを実感できるまちづくりの構築を目指すとなります。

事業費の拡充で、どのような効果がさらに期待できるのか、幸せはポイントで実感できるのでしょうか、お聞きします。

幸せの度合いは人それぞれだと思いますが、考え方を聞かせてください。

次に、ゼロカーボンの取組について伺います。

2050年ゼロカーボンシティの実現に向け、行政はもとより、市民、事業者等、オール富良野で取組を進めていくとあります。

これまで、ごみのリサイクルの取組は、歴代市長4代にわたり続けられ、リサイクル率は90%を超える回収率になっており、全国の先進事例にもなっております。また、令和4年9月に供用を開始した新庁舎は、地下熱を利用した空調設備を使用し、照明器具はLEDを使用し、光熱費の削減に努め、また、太陽光発電設備導入などへの支援拡充の取組などで脱炭素を進めるとあります。

脱炭素ロードマップの推進を図るため、知見、技術を持った企業と連携しながら、市民と行政が一体となり、二酸化炭素排出量の実質ゼロに向け、協議をスタートさせるなど、脱炭素化の取組を新しい地域活力の創造につなげ、持続可能なまちづくりを進めるとありますが、令和5年はどのような考えを持って進めていくのか、また、将来はどのような形になればいいのか、その考えをお聞かせください。

次に、創る。まわす。しごとのWA!の鳥獣害対策に

ついて伺います。

ここ数年、熊、鹿、アライグマなどの頭数が目に見えて増えている実感があります。富良野市の基幹産業である農産物被害は特にひどく、また、農作物被害にとどまらず、最近では、行動範囲が広がることで交通事故、熊との遭遇での人身事故も実際に起こっており、深刻な状況と考えます。

アライグマなど中型動物は、自主的努力で防止対策もできますが、熊、鹿などの大型動物はどのような対策をどう進めていくのか、また、ハンターの育成並びに確保はどのように取り組まれていくのか、伺います。

次に、企業誘致の推進について伺います。

地域資源を活用した企業の立地に向け、継続した協議を進めるとともに、今後の誘致に向けた情報発信を進めるとありますが、地域資源を活用する企業とはどのような企業をイメージしているのか、また、情報発信はどのように進めていくのか、お伺いいたします。

次に、想う。みがき合う。まちのWA!の公園緑地の整備について伺います。

公園の適切な維持管理を行うとともに、公園施設長寿化計画に基づき、曙公園ほか5公園の遊具更新や栄町公園のネットフェンス修繕を進めるとあります。

小児用だけでなく、成人向けの健康遊具設置などは考えているのか、伺います。

次に、中心市街地の活性化について伺います。

東5条3丁目地区市街地再開発事業の事業採択に向け、計画コーディネート業務を実施していくとあります。

令和5年度はどの程度の進捗になるのか、現在の進捗状況も併せてお聞かせください。

次に、地籍調査について伺います。

事業の遅れは当初からで、本来であれば東山地区は、とうに完了しているはずですが、地籍調査事業は、もっと加速し、推進すべきと考えますが、見解を伺います。

次に、ふるさと納税について伺います。

シティプロモーションの取組と連動して、富良野の豊かな特産品やまちの魅力を積極的にPRすることで、寄附金額のさらなる向上を目指すとなります。

令和4年の大幅な上昇は、市長部局の努力と関係機関の取組が全国の富良野ファンに届いたあかしでないだろうかと思いますが、推進内容と令和5年度の寄附金額の目標をどのように設定していくのか、伺います。

また、シティプロモーションの取組をどう連動させていくのか、伺います。

次に、教育行政執行方針について伺います。

学校教育についての主体的な学びを育てる 知育の木の学力向上では、小学生を対象とした標準学力検査を新たに中学校でも実施し、学力の経年変化分析をすることにより、各学校における学習指導方法の工夫や授業改善、

家庭と学校の連携による家庭学習時間の確保などを行い、学びに向かう学習環境づくりに取り組むとあります。

何よりも、本人のやる気を引き出すのが肝要と思われます。具体的な事業内容があれば伺います。

次に、ICT教育について伺います。

国のGIGAスクール構想に基づき、児童生徒1人1台の端末の持続的な活用やネットワーク環境のさらなる改善に取り組むとともに、新たにICT支援員の配置、教師のICT活用指導力の向上などをさらに推進していくとあります。

ネットワーク環境のさらなる改善の取組と現状はどのように考えられているのか、また、ICT支援員をどう配置するのか、伺います。

次に、特別支援教育について伺います。

富良野市第4次特別支援教育マスタープランに基づき、教育的ニーズの把握、個別の支援計画、指導計画を活用した効果的な支援や合理的配慮の提供とあります。

効果的な支援と合理的配慮の提供とはどう考えているのか、伺います。

次に、切れ目のない子育て支援についてのへき地保育について伺います。

少子化が進む中、新年度に入園者がゼロ人という保育所もあると伺っております。

保護者、地域などと、幼保連携など、今後の在り方をどう進めていくのか、お伺いいたします。

以上、申し上げ、民主クラブの代表質問を終わります。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市長北猛俊君。

○市長（北猛俊君） -登壇-

民主クラブ、石上孝雄議員の市政執行方針に対する代表質問にお答えします。

1件目、重点政策についての健幸都市についてですが、健幸とは、身体面の健康だけではなく、人々が生きがいを感じ、安全・安心で豊かな生活を送れることとあります。新規事業に限らず、既存事業においても健幸の視点を取り入れることで、健幸都市としての生活環境整備や地域コミュニティの醸成等を図ってまいります。

また、健幸ポイント事業は、健康無関心層が約7割を占める本市において、健康習慣のきっかけづくりとして有効であると考えております。

次に、ゼロカーボンの取組についてですが、令和5年度の取組として、市民のゼロカーボンに向けた行動変容への意識醸成が必要であると考えており、どのような行動がゼロカーボンにつながり、その効果はどの程度なのか、見える化し、さらに、セミナーやイベント等の開催により行動変容を促してまいります。

また、再生可能エネルギー導入促進策として、現在実

施している太陽光発電や木質ストーブ導入補助の拡充を行うとともに、国の補助事業活用による市民への具体的な再生可能エネルギーなど導入施策や、市施設への導入計画を策定し、再生可能エネルギー導入の動きを加速してまいります。

将来の目指す姿としては、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとすることのほか、ゼロカーボンの取組が農業等の他産業の活性化や課題解決につながり、また、地域エネルギーを担う人材が新たに確保されるなど、地域経済が発展し、かつ、森林保全やごみリサイクルの活動推進などにより、市民生活の向上が図られることが重要であると考えております。

2件目、創る。まわす。しごとのWA!の鳥獣害対策についてであります。大型動物への対策は、電気柵設置への補助を継続するとともに、捕獲につきましては猟友会の協力を得ながら進めてまいります。また、令和4年度に実践されている囲いわなの効果を検証し、地域と協力しながら今後の対応を検討してまいります。

ハンターの育成、確保につきましては、猟銃免許取得に係る費用や銃器取得への補助、技術継承などにより、若いハンターの育成を進めてまいります。

次に、企業誘致の推進についてですが、本市の農産物を活用した企業の立地に向けた協議を継続するとともに、食品加工業や宿泊、飲食、アクティビティーなどの観光業など、様々な企業の誘致に向け、ホームページなどにより情報発信してまいります。

情報発信につきましては、本市が有する魅力的で多様な資源について、市ホームページや公式SNS等を通じて発信するほか、ふるさと納税の寄附者や、ワーケーションでつながりを持った企業等に向け、パンフレット等により本市の魅力をアピールし、誘致を促進してまいります。

3件目、想う。みがき合う。まちのWA!の公園緑地の整備についてですが、公園遊具の更新は、利用者の状況や町内会などの意見を伺い、市民ニーズを踏まえた中で健康遊具を設置してまいります。

次に、中心市街地の活性化についてですが、東5条3丁目地区市街地再開発事業は、令和4年度に街区整備計画を策定し、事業エリアの整備方針などを定め、令和5年度は、事業推進に向けた計画コーディネート業務を実施し、事業採択に向けた取組を進めてまいります。

進捗状況につきましては、令和5年度までを国の都市再開発支援事業を活用した事業準備段階とし、令和6年度からは都市再開発法に基づく法定再開発事業として着手、令和10年度までを想定事業期間として事業推進を図ってまいります。

次に、地籍調査についてですが、令和4年度で、富良野市全体の進捗率は13.4%、東山地区については

56.9%となっております。

地籍調査事業は、国の負担が50%、都道府県負担が25%、市町村負担が25%として実施しております。

当初より、事業推進に向け、国や北海道に対し、財源要望してきておりますが、配当額が低くなっている状況であり、計画の遅れによる地域住民の不安もあることから、引き続き、上川総合開発期成会を通じ、事業の円滑な推進のための財源確保について要望してまいります。

次に、ふるさと納税についてであります。推進内容につきましては、令和4年度の実績を踏まえ、公式SNSの活用などの効果的なPRにより、7億円以上の寄附獲得を目標として取り組んでまいります。

シティープロモーションとの連動につきましては、ふるさと納税のPRにおいて、本市の魅力を内外に広く発信することで、市外での富良野ファン拡大のみならず、市内においても様々な魅力に気づくことで返礼品の開発やシビックプライドの醸成につながる可能性がありますので、関係部署や事業者等と連携して効果的なプロモーション活動に取り組んでまいります。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続けて、御答弁願います。

教育委員会教育長近内栄一君。

○教育委員会教育長（近内栄一君） -登壇-

民主クラブ、石上孝雄議員の教育行政執行方針に対する代表質問にお答えいたします。

1件目、学力の向上についてであります。子供たちが豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができる資質、能力を育成するためには、知識の暗記、正解主義への偏りから、児童生徒の発達段階に応じ、興味関心を生かした主体的な学びを促す指導が必要です。

したがって、授業改善に当たっては、学習意欲を増進し、生涯にわたり学び続ける資質、能力を育成するため、児童生徒が自ら学び続けることを重視し、他者との協働や課題解決型学習などにより、対話的で深い学びが実現できるよう取り組んでまいります。

2件目、ICT教育についてのネットワーク環境のさらなる改善の取組と現状であります。各学校では教育活動においてICTを積極的に活用しており、今後も、教師のさらなる指導力向上や、デジタル機材、学習ソフト、教科書などのICT環境整備や、より高度な教育デジタルトランスフォーメーションの実現に向け、努めてまいります。

次に、ICT支援員の配置については、学校でのICTを活用する授業や校内研修、環境整備などの支援を行い、よりスムーズに教育活動などを行うため、令和5年度2名の配置を予定しており、拠点校方式により担当校を巡回し、ICT支援を行ってまいります。

3件目、特別支援教育についての効果的な支援と合理的配慮の提供であります。特別支援教育を必要とする児童生徒に対しては、教育、医療、保健、福祉などの関係機関が連携し、障がいの状態などに応じたきめ細かい効果的な支援と、障がいのある子供が他の子供と平等に教育を受ける権利を行使することを確保するための合理的配慮により、必要かつ適切な支援を行ってまいります。

4件目、切れ目のない子育て支援についてのへき地保育所についてであります。今後のへき地保育所の在り方につきましては、子供たちにとって望ましい幼児教育保育環境の確保に向けた指針に基づき、現状のままの幼児教育、保育を維持することが非常に困難な状況になった場合を見据え、保護者や地域の方々と、引き続き、地域に子供を預ける場所の確保を念頭に、保育形態や保育場所、運営方法などについて協議、検討を進めてまいります。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 以上で、石上孝雄君の質問は終了いたしました。

ここで、10分間休憩いたします。

午前10時58分 休憩

午前11時05分 開議

○議長（黒岩岳雄君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

休憩前の議事を続行いたします。

次に、ふらの令和の会、後藤英知夫君の質問を行います。

17番後藤英知夫君。

○17番（後藤英知夫君） -登壇-

ふらの令和の会を代表して、今議会に提出されました令和5年度市政執行方針、教育行政執行方針について、順次、質問いたします。

本市においては、3年以上にも及ぶ新型コロナウイルス感染症の影響や、令和4年2月からのロシアによるウクライナ侵攻により、基幹産業であるホテルなどの宿泊業、観光業や関連産業、飲食業にとってダメージは非常に大きく、物価高が追い打ちをかけ、市民生活をも圧迫しています。

農業にとっても、家畜の飼料や肥料、農薬などの生産資材は過去に例がないほどの高騰と品不足により、営農継続に不安が高まっており、経済の衰退は人口減少にさらに拍車をかけることが懸念されます。

観光では、国内客を中心にコロナ禍前に戻りつつあるものの、今後も、あらゆる面で情勢を注視しながら、本市の持続的発展のため、地域経済を支え、子育て世代へ

の応援や高齢者が安心して暮らせるための効果的な施策を継続し、健康都市の実現に向けた取組を加速していく一年としなければならないと考えます。

まず、ゼロカーボン、脱炭素の取組について伺います。

ゼロカーボンシティーへの市民意識の醸成を図るために、日常生活の中で脱炭素化できる行動例の見える化と行動変容の促し、太陽光発電設備導入等への支援拡充とありますが、具体例をお示しください。

主な施策について、1、輝く。つながり合う。ひとのWA！から、地域医療について伺います。

地域センター病院の医師確保に対し、医師養成確保就学資金の貸付け、また、看護師の育成と地域に定着することを目的として、看護職員養成修学資金の貸付けを実施し、継続するとあります。

今後に必要な施策と考えますが、これまでの実績と効果の検証をどうお考えなのか、お聞かせください。

男女共同参画の推進について伺います。

様々な場面での女性が活躍する社会の実現がこれからの発展のキーワードと言われて久しい中、進展が見えてこない部分も多いように感じます。国では、女性の積極的な登用を進めるよう、自治体などに対して通達があったと聞きます。

庁内や関係する委員会などに関し、市としての方向性や見解を伺います。

2、創る。まわす。しごとのWA！から、持続可能な農業の推進についてお聞きします。

担い手不足を主な要因として農家戸数の減少が進み、1戸当たりの耕作面積が拡大し、労働力不足、賃金や生産資材の上昇が重なり、より一層、効率のいい農業経営が求められています。本市においても、省力化や農業基盤強化を促進するため、スマート農業に対し、平成29年度より補助事業を開始しております。

令和5年度、最適な通信環境の整備に向けた実証実験に取り組むとありますが、計画の内容についてお尋ねします。

商工振興について伺います。

循環型経済の活性化に向け、メイドインフラノの認定や販路拡大に取り組んでいくとあります。

販路拡大に向けて、本市はどこを担っていくのか、お聞かせください。

3、想う。みがき合う。まちのWA！の中から伺います。

都市計画について、富良野らしい都市計画の形成と自然環境の保全に努めるとともに、スポーツセンター耐震改修に伴う用途地域の見直しについて検討するとありますが、用途地域の見直しとはどのような意図と計画なのでしょう。

公営住宅について伺います。

自治体がどれだけ子育て世代の負担を軽減し、応援できるかが人口減少の緩和策と思われる中、子育て世帯に特化した宅地分譲を実施するとありますが、狙いや場所、具体的な対象者はどのように想定されているのか、お尋ねします。

4、感じる。つなげる。自然のWA！から、ごみの減量、リサイクルについて伺います。

ごみの減量、リサイクルの取組は、市長がシビックプライドと市政執行方針で言われているように、長年にわたっての市民の理解と協力のたまもであり、他自治体に対しても誇れるものだと思います。

さらに、ごみ資源の地産地消をより一層進める上では、RDFボイラーで使用される固形燃料の良質化が肝要であります。

ごみ資源の品質向上に向けた取組についてお聞きします。

続いて、教育行政執行方針について伺います。

学校教育について、国のGIGAスクール構想に基づき、本市においても、児童生徒に対し1人1台の端末が整備され、ICT教育を推進していく上で、新たにICT支援員の配置、教師のICT活用指導力の向上を推進するとありますが、ICT支援員を配置するめどはあるのでしょうか。

また、教師のICT活用指導力向上のための対策をどのようにお考えなのか、お尋ねします。

小・中学校の適正規模、適正配置についてですが、令和4年度末をもって布礼別小学校が閉校となり、令和5年度末には布部小中学校が閉校となります。保護者や地域との検討、協議を重ねた結果であり、急速な少子化の中で、将来の子供たちの健全な成長を考えるとやむを得ない判断かと思えます。小規模校から新たに学校に通学する児童生徒にとっては、大きな環境の変化であり、順応できるよう、細やかな配慮が必要であると考えます。

対応を含め、見解をお聞きします。

富良野市内の高等学校2校が令和7年4月に新設校として再編するに当たり、教育活動の充実による魅力的で地域から求められる高校づくりに向けて協力支援を進めるとあります。

現時点では、市外の高校に進学する生徒が多い状況があり、新しくできる高校は、生徒たちの将来の夢が実現できる可能性が大きく、地域の中学生に選んでもらえる学校にするために、教育委員会が保護者や生徒からの要望や意見を積極的に聴取し、情報を発信していくことが肝要であり、北海道教育委員会に対しても強く提言していくべきと考えます。

見解をお尋ねし、以上で、ふらの令和の会の代表質問を終わります。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市長北猛俊君。

○市長（北猛俊君） -登壇-

ふらの令和の会、後藤英知夫議員の市政執行方針に対する代表質問にお答えします。

1件目、重点政策についてのゼロカーボンの取組についてであります。2050年ゼロカーボンシティの実現に向けては、第一に、市民のゼロカーボンへの意識醸成が重要であると考えております。具体的には、ゼロカーボンにつながる行動は何か、どの程度二酸化炭素の削減効果があるのかなどをアクションプランとしてまとめ、市民に周知し、あわせて、セミナーやイベント等を開催してまいります。また、現在実施している再生可能エネルギー導入促進事業補助金について、木質ストーブは予算増額による導入件数拡大、太陽光発電システムについては最大補助額を15万円から50万円へと拡充するなど、再生可能エネルギー導入への動きをさらに促すことにより市内の機運を高めてまいりたいと考えております。

2件目、輝く。つながり合う。ひとのWA!の地域医療についてであります。医師養成確保就学資金の貸付けは、平成26年度から開始し、これまで15名に貸付けを行い、うち8名が地域センター病院で初期研修医として勤務し、研修終了後も出張医として勤務している医師もいることから、地域センター病院の医師確保について効果を上げている取組と考えております。

看護職員養成修学資金の貸付けは、平成10年度から開始し、209名に貸付けを行い、市内医療機関に就業する割合は82.7%となっており、看護師定着のための有効な施策であると考えております。

次に、男女共同参画の推進についてであります。第2次富良野市男女共同参画推進計画では、あらゆる分野における男女共同参画の実現を基本目標とし、推進項目には市の管理職や審議会への女性の登用促進を掲げ、その目標値を30%としております。

今後も、女性が政策や方針の決定など多様な活動に参画できるよう、関係部署とも連携を図りながら、推進計画及び具体的施策を引き続き推進してまいります。

3件目、創る。まわす。しごとのWA!の持続可能な農業の推進についてであります。農林水産省農山漁村振興交付金の情報通信環境整備対策事業を活用し、令和5年度から2年間、山部北星地区及び南陽地区において、水田やビニールハウスの自動給水及び自動制御の水管理システム導入における通信環境の実証実験及び最適化調査を行う予定であります。

次に、商工振興についてであります。メイドインフランド認定商品の開発に向け、中小企業振興総合補助金などにより、支援を進めるとともに、販路拡大におきましては、富良野地方物産振興会や北海道貿易物産振興会などの情報交換の場を設け、道内外で開催される北海道

物産展や商談会の情報発信、出展に向けた支援を行ってまいります。

4件目、想う。みがき合う。まちのWA!の都市計画についてであります。現在、スポーツセンターのある地域は第1種住居地域となっており、将来的な増改築を行う場合に制限がかかる用途となっていることから、耐震改修に併せて、第3次富良野市都市計画マスタープランに基づく適正な土地利用を図るため、第2種住居地域への変更を進めるものであります。

次に、子育て世帯に特化した宅地分譲についてであります。子育て世帯の宅地取得を支援することで、子育てしやすい住環境や子育て世代の定住促進により、人口減少の緩和や地域活動の活性化を期待するものであり、公営住宅跡地である東町団地の一面を85坪程度に分筆し、市内建設業者の施工、対象者は40歳未満で、16歳未満の子供がいる世帯などの要件を設け、低価格で分譲しようとするものであります。

5件目、感じる。つなげる。自然のWA!のごみの減量、リサイクルについてであります。市民に向けては、リサイクルの現状を知っていただくため、引き続き、RDFの燃料分析値やリサイクル率の各実績を広報ふらの、ごみアプリ等により周知し、啓蒙を図ってまいります。また、民間事業者が市内で実証を進めている資源化事業を活用したRDF試作品製造を予定するとともに、国が推進している容器包装以外のプラスチックリサイクルの動向や廃棄物リサイクルに関わる情報収集に努めながら、本市に合った品質向上に取り組んでまいります。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続けて、御答弁願います。

教育委員会教育長近内栄一君。

○教育委員会教育長（近内栄一君） -登壇-

ふらの令和の会、後藤英知夫議員の教育行政執行方針に対する代表質問にお答えいたします。

1件目、学校教育についてであります。ICTを効果的に活用することによって、児童生徒の指導の個別化、学習の個性化により、個別最適な学びの実現を図ってまいります。

さらに、ICT教育をより円滑かつ効果的に進めるため、地域おこし協力隊派遣事業を活用し、ICT支援員2名の確保を予定しております。また、北海道教育委員会の事業を全小学校へ拡大し、加配教員3名によるTT指導や、教師のICT活用指導力の向上に向けた研修の充実を図ってまいります。

2件目、小・中学校の適正規模、適正配置についてであります。小規模校の児童生徒にとっては、学校の統合により学校規模が拡大することに伴い、学習環境や生活環境、教職員との関係などが大きく変化するため、新たな生活に戸惑いが生じることも考えられます。そのた

め、統合などが決定した後は、統合先との授業や学校行事などの交流を重ねるとともに、統合先の学校と児童生徒に関する情報共有の下、必要に応じてスクールカウンセラーへの相談体制などを整えながら、学校統合の際の児童生徒への不安払拭などへ配慮してまいります。

3件目、高校教育についてであります。本市教育委員会では、令和4年6月に公立高等学校配置計画案が出された後、北海道教育委員会に対し、高校再編保護者説明会において説明、意見聴取の場を設けるとともに、北海道教育委員会のこれからの高校づくりに関する指針改定版に係る意見を聞く会において、子供たちの意見を反映させる取組などを要望しております。

また、本市教育委員会が設置した富良野市内高等学校魅力化推進会議では、富良野圏域の中学生から魅力ある高校づくりに向けた意見などを出してもらふらの中学生未来会議を開催し、その内容を両校による新設校統合準備委員会に情報提供し、意見反映を求めてきました。

今後も、引き続き、北海道教育委員会及び新設校統合準備委員会に対し、魅力ある高校づくりに向け、保護者や生徒の意見を聞く場を設けるとともに、地域の教育ニーズに対応する学科構成など、教育体制を早い段階で明確にし、速やかな情報発信を行うよう働きかけてまいります。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 以上で、後藤英知夫君の質問は終了いたしました。

次に、市民連合議員会、松下寿美枝君の質問を行います。

4番松下寿美枝君。

○4番（松下寿美枝君） -登壇-

さきに提出されました令和5年度市政執行方針並びに教育行政執行方針について、市民一人一人が幸福を実感するまちという総合計画における全体指標を念頭に置き、市民連合を代表いたしまして質問いたします。

(1) 輝く。つながり合う。ひとのWA!から、地域における社会福祉について伺います。

民生委員児童委員、社会福祉協議会、地域住民、ボランティア、福祉関係団体、民間事業者などとの連携により、高齢者、障がい者、子供など、世代や背景の異なる全ての人が参画し、地域を共に創っていく地域共生社会の実現に向けた取組を推進していくとあります。

地域共生社会とは、制度、分野ごとの縦割りや支え手、受け手という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会を指しています。

本市の目指す地域共生社会の実現に向けて、どのような取組を行っていくのか、伺います。

次に、高齢者福祉については、本年度も引き続き地域包括ケアシステムの深化、推進に取り組むとあります。

高齢化率が上がってきている中で、地域包括ケアシステムを深化させるとは具体的にどのようなことを指すのか、伺います。

次に、介護予防については、通いの場や事業所に専門職員を派遣するとあります。

誰一人取り残さないために、通いの場へ来られない方への支援はどのように考えていくのか、伺います。

次に、男女共同参画の推進については、関係機関などと連携し、人権尊重と男女共同参画社会の実現に向けた意識の普及啓発に努めるとありますが、どのように男女共同参画の実現に向けて普及啓発を進めていくのか、伺います。

次に、外国人との共生については、地域と連携を図り、共に住みよいまちづくりを推進するとあります。

どのような形を共に住みよいまちづくりのイメージとして持っているのか、伺います。

次に、文化芸術活動については、新しい文化会館を拠点に、文化団体の支援や発表、鑑賞の機会を提供し、文化振興を図るとともに、人材育成を推進するとあります。

これまで連綿と続いてきた富良野市の伝統芸能や伝統文化の継承は課題であると考えます。文化芸術に携わる人材の育成は何より必要なことと考えますが、その部分をどのように担っていくのか、伺います。

次に、(2) 創る。まわす。しごとのWA!から伺います。

農業については、担い手が減り、高齢化していく中で、富良野地区農業センターがどのような力を発揮していくのか、役割について伺います。

次に、森林の管理保全については、市民や観光客に対し森林への理解を深める取組を森林環境譲与税の有効活用により行うとありますが、具体的にどのような取組を行うことを想定しているのか、伺います。

また、環境保全に関わる人材の育成については、どのように育成していくのか、考えを伺います。

次に、観光マネジメントについて伺います。

本市の観光をマネジメントする組織、DMOの設置及び財源の検討を進めるとあります。

DMOの設置及び財源の検討について、具体的にどのように進めていくのか、伺います。

次に、雇用促進については、関係機関・団体などと連携し、労働力確保に向けた新たな施策を検討していくとありますが、これまで労働力確保に向けては多様な支援メニューがありましたが、新たな施策の新しいとはどのようなイメージを持っているのか、お伺いします。

次に、(3) 想う。みがき合う。まちのWA!から伺います。

公営住宅ですが、子育て世帯に特化した宅地分譲を実施するとありますが、場所はどこの地域で検討しているのか、伺います。

次に、総合的な地域交通体系の構築については、富良野市地域公共交通計画に基づき、地域の交通資源を活用した持続可能な交通体系の実現に向け、検討を進めるとありますが、地域の交通資源とは具体的に何を指すのか、伺います。

次に、ふるさと納税については、ふるさと納税の基本的な考え方について伺います。

また、寄附金額のさらなる向上を目指すとはありますが、使い道に関してはどこに重点を置いて使っていくのか、伺います。

(4) 感じる。つなげる。自然のWA!から伺います。

環境保全及び地球温暖化対策の推進については、ゼロカーボンの取組を進めるとありますが、行政として、どのように市民へ協力を求めているのか、具体的な考えを伺います。

次に、教育行政執行方針について伺います。

学校教育についての2) 自主自律の心を育てる 情意の木から伺います。

不登校児童への支援の中で、教育支援センターの機能強化と組織的、客観的な状況把握などによる社会的自立のためのアウトリーチ型の支援の充実とありますが、今回提案されているアウトリーチ型の支援とは、具体的にどのようなことを想定されているのか、伺います。

4) 原点を見つめ未来への輪を広げる 学びの大地から伺います。

小・中学校の適正規模、適正配置については、富良野市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する改正指針を見直すとはありますが、具体的に何を見直していくのか、伺います。

次に、学校における働き方改革の一つの切り口とされている部活動の地域移行に関しては、学校、保護者、地域との連携、業務改善の取組を一層推進するとありますが、どのように取り組んでいくのか、伺います。

社会教育について伺います。

1) 家庭、地域の教育力向上、学校との連携、協働の推進の中から伺います。

地域の実情に応じ、市内小学校の空き教室等の活用による地域と連携した子供の居場所づくりを検討するとありますが、検討に至った経緯について伺います。

切れ目のない子育て支援について。

令和5年4月からは、子供の最善の利益を第一として、子供の視点に立った当事者目線の政策を強力に進めていくことを目指した政府の機関であるこども家庭庁がスタートします。本市においても、全ての子供の発達段階や特性に応じた相談、支援体制充実のため、令和6年4月

より、こども家庭センターの設置とあります。

センターの設置により、いままでどのように違ってくるのか、内容について伺います。

以上、市民連合委員会を代表しての代表質問といたします。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市長北猛俊君。

○市長（北猛俊君） -登壇-

市民連合委員会、松下寿美枝議員の市政執行方針に対する代表質問にお答えします。

1件目、輝く。つながり合う。ひとのWA!の地域における社会福祉についてであります。第3期富良野市地域福祉計画に基づく各種施策を関係機関、事業所等と連携しながら推進してまいります。

地域福祉の推進は、市民同士のつながりが基盤であり、障害者週間に合わせた事業所活動の展示、広報や市ホームページを活用した啓発活動に取り組み、障がいのある人への理解を市全体で深めていくことにより、互いに尊重し、支え合い、自分らしく生きることのできる地域共生社会を目指してまいります。

次に、高齢者福祉についてであります。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムのさらなる充実に向け、取り組んでいるところであり、多職種による地域ケア会議などを通じて地域の課題を把握し、必要な生活支援サービスにつなげてまいります。

令和5年度は、第9期富良野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に向けたニーズ調査などを実施し、今後も、関係機関、事業所との連携強化に努めるとともに、中核機関として地域包括支援センターの機能強化を図ってまいります。

次に、介護予防についてであります。通いの場に来られない方への支援といたしましては、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な取組として、保健医療課と高齢者福祉課との連携により、健康診断を受診しておらず、介護サービスも利用していない高齢者へのアプローチを行い、適切な支援につなげてまいります。

次に、人権意識の高揚と男女共同参画の推進についてであります。第2次富良野市男女共同参画推進計画を着実に推進し、計画で掲げた数値目標達成のための具体的展開や各団体等との意見交換、研修会の開催など、男女共同参画社会実現のための施策に取り組んでまいります。

また、外国人との共生については、地域コミュニティの課題解決とともに、多言語による情報提供や地域での意見交換会等の開催により、相互の文化等を認め合う環境を構築することで、住みやすいまちづくりの推進を

図ってまいります。

次に、文化芸術活動についてであります。文化芸術活動は、市民生活に心の豊かさと潤いをもたらす、個性豊かな地域文化の創造の基盤をなすものであり、富良野市文化芸術基本条例を制定し、演劇文化をはじめとする文化芸術の力を教育やまちづくりに生かす中から、新たな担い手の発掘や新しい団体への働きかけについて、関係団体等との協働により引き続き取り組んでまいります。

2件目、創る。まわす。しごとのWA!の生産性向上対策についてであります。農地基盤整備事業は、農地の集約化、大区画化、用排水路の整備などを行い、農作業の効率化や産地収益力の向上、農地保全などを旨とする富良野地区農業センターは、富良野市、山部、五区、御料、南富良野町金山、下金山を受益とする国営農地再編整備事業の円滑な実施に向けた地域の調整役を担うものであります。

次に、森林の管理保全についてであります。市民の森林への理解を深めるため、森林環境譲与税を活用し、子どもの木育スタート事業やふらの森の教室推進事業、ペレットストーブを通じた木材資源の活用を進めてまいります。また、森林環境活性化事業により、民間団体での研修や体験学習を支援し、市民や観光客など、環境保全に関わる人材の育成に取り組んでまいります。

次に、観光マネジメントの強化についてであります。令和4年度ふらの観光まちづくり戦略会議においてDMOの設置に向けた協議を再開しており、今後も、DMOと市、観光協会の役割分担などの議論を継続してまいります。

また、DMOの運営に向けた財源確保については、宿泊税を想定していることから、DMOの設置と併せ、使途の整理や導入に向けた合意形成の議論を再開させていただきます。

次に、雇用促進についてであります。少子高齢化の進行に伴う生産年齢人口の減少により、労働力確保は本市においても急務の状況であります。学卒者の地元定着促進や首都圏からの移住就労、高齢者や子育てママなどの潜在労働力の掘り起こしに向け、しごと情報提供サイト、フラノ・ジョブ・スタイルでの情報発信を行うとともに、外国人労働者やU I J ターン就労者を獲得するための支援策を全庁的に検討してまいります。

3件目、想う。みがき合う。まちのWA!の子育て世帯に特化した宅地分譲についてであります。場所は東町団地の公営住宅跡地を予定しております。

次に、総合的な地域交通体系の構築についてであります。地域の交通資源とは、既存の公共交通である鉄道、路線バス、タクシーをはじめ、スクールバス、地域やタクシー会社によるコミュニティカー、福祉輸送など、富良野市全体が有する移動支援に携わる車両や運転手など

を指すものであります。

次に、ふるさと納税についてであります。ふるさと納税の基本的な考え方については、まちづくりのための貴重な原資として寄附をいただくことと併せて、商品開発、地場産品の販路拡大などにより雇用創出、地域活性化を図る取組であり、地域の様々な魅力のPRになることから、関係人口の創出や移住、定住にもつながるものと考えております。

寄附金の使い道につきましては、子育て、教育の充実、農林業の振興、医療、介護、福祉の充実、観光の振興のうち、どの政策区分に対して寄附するかを寄附者に指定いただいておりますので、その意向を尊重して、該当する事業の原資として活用してまいります。

4件目、感じる。つなげる。自然のWA!の環境保全及び地球温暖化対策の推進についてであります。2050年ゼロカーボンシティ実現のためには、市民一人一人がごみリサイクルと同様の高い意識をゼロカーボンの取組にも持ってもらうことが重要であると考えております。

そのため、ゼロカーボンに資する行動例をまとめたプランを作成、周知するとともに、セミナーやイベント等を開催し、また、再生可能エネルギー導入に関しては、既存補助事業の拡充により市内での機運を高め、市民のゼロカーボンへの理解を深めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続けて、御答弁願います。

教育委員会教育長近内栄一君。

○教育委員会教育長（近内栄一君） 市民連合議員会、松下寿美枝議員の教育行政執行方針に対する代表質問にお答えいたします。

1件目、不登校児童への支援についてであります。児童生徒に対して適切な学習支援、相談につなげることが課題であり、つながっていない児童生徒に対し、電話、家庭訪問などを通じての相談、学習支援などを行う指導員の配置など、アウトリーチ型支援の必要性が高まっていることから、適応指導教室指導員の支援だけでなく、臨床心理士によるカウンセリングを行い、寄り添い、傾聴し、孤立させないよう見守り体制を強化してまいります。

2件目、小・中学校の適正規模、適正配置についてであります。現在の富良野市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する改正指針は、平成30年度から令和9年度までの10年間を期間とした計画であることから、令和5年度からの後期5年間については、昨今の急激な社会情勢や学校を取り巻く変化に鑑み、今後の具体的な小・中学校の適正配置について見直しを行い、保護者や地域との共通認識の下、慎重に協議を進めてまいります。

3件目、学校における働き方改革についてであります

が、部活動の地域移行について、令和5年度は、部活動の地域移行を検討する協議会を設置し、推進体制の検討や具体的な実施方策について協議を進めるとともに、実施可能なところから、順次、地域移行の試行に取り組んでまいります。

4件目、青少年教育についてであります。市内小学校の空き教室などの活用による地域と連携した子供の居場所づくりについては、市街地の学童保育センターとして活用している施設の老朽化への対策や、児童数の減少に伴い小学校に空き教室が増えることが想定されることから、地域の実情や地域学校協働活動を担う地域人材の活用、保護者との連携を踏まえた検討をしております。

5件目、子ども、子育て支援についてであります。令和6年4月（61ページで訂正）の設置を目指しているこども家庭センターにつきましては、保健センター2階にこども通園センターの移転とともに整備を計画しており、保健センター1階の保健医療課及び子育て支援センターの様々な専門職と連携しながら、子供の発達段階、成長に合わせた子供・子育て世代への切れ目のない相談支援体制を構築したいと考えております。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） ここで発言訂正の申出がありますので、許可いたします。

教育委員会教育長近内栄一君。

○教育委員会教育長（近内栄一君） -登壇-

ただいまの松下議員の代表質問に対するお答えで、御訂正をお願いいたします。

5件目、子ども、子育て支援について、こども家庭センターの設置の時期を、令和5年4月と申し上げました。正しくは、令和6年4月の設置でございます。

以上、御訂正をよろしくをお願いいたします。

○議長（黒岩岳雄君） 以上で、松下寿美枝君の質問は終了し、市政執行方針並びに教育行政執行方針に対する代表質問を終わります。

散 会 宣 告

○議長（黒岩岳雄君） 以上で、本日の日程は終了いたしました。

明8日は、議案調査のため、休会であります。

9日の議事日程は、お手元に御配付のとおり、天日公子君、大西三奈子君、宮田均君、大栗民江君、渋谷正文君の一般質問を行います。

本日は、これをもって散会いたします。

午前11時52分 散会

上記会議の記録に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和 5 年 3 月 7 日

議 長 黒 岩 岳 雄

署名議員 渋谷 正文

署名議員 後 藤 英知夫